



吉川次郎 Jiro KIKKAWA
 特任助教 Junior Assistant Professor
 博士 (図書館情報学) Ph.D.

Keywords: 学術情報流通, 計量書誌学, 電子図書館
 Contact: jiro@slis.tsukuba.ac.jp

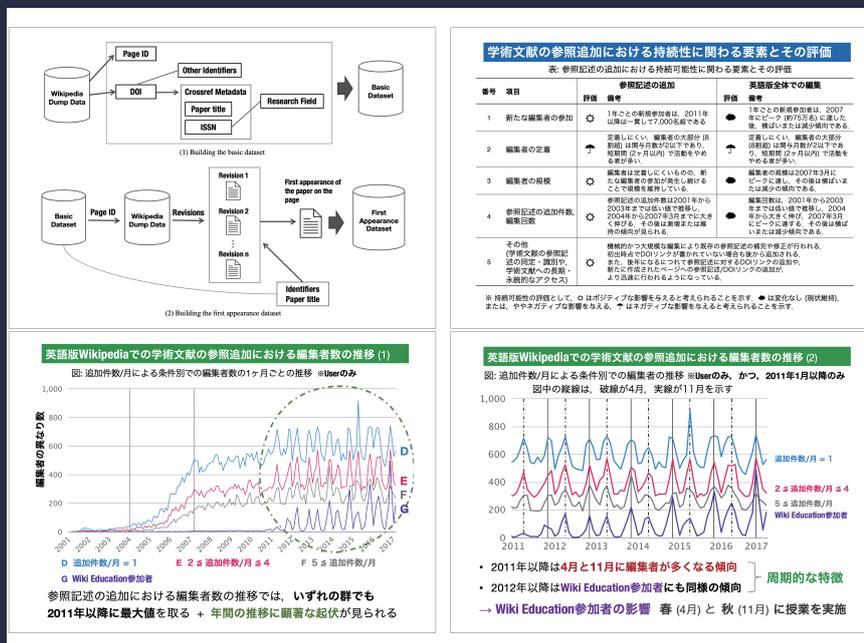


研究概要

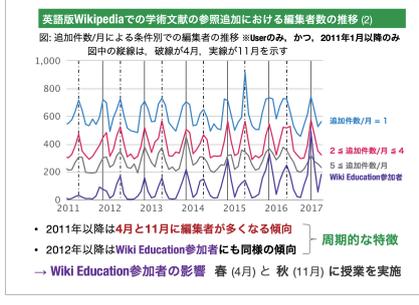
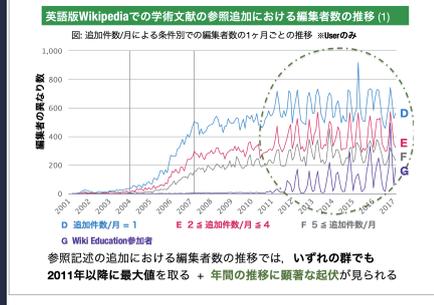
電子化された学術文献がウェブ上で大規模に流通するようになったことを背景に、研究者や専門家などに限らず、多様なコミュニティによる学術文献の利活用が生じています。一例として、Wikipedia 記事中での情報源や出典を示すための学術文献の参照が挙げられます。Wikipedia 上で学術文献を参照することは、信頼性の高い学術知識を集積する点で重要な役割を果たします。特に、今日、生命や健康に深く関わる場面でも閲覧されることから、Wikipedia の学術知識の信頼性に関

する定量的な評価を行ったうえで、信頼性を向上させるための枠組みを構築することが不可欠です。

これらの背景から、私はこれまで、Wikipedia 上の学術文献の参照の抽出や、いつ、誰が個々の参照を追加したかを特定する手法の開発に取り組みました。さらに、同手法により構築したデータセットを用いた定量的な評価を行ってきました。現在は、信頼性を向上させるための枠組みの構築を進めるとともに、学術ビッグデータの分析に取り組んでいます。



■(左上) Wikipedia 上で学術文献の参照を、いつ、誰が追加したかを特定するための手法の概要図、(右上)学術文献の参照追加における持続性に関する要素とその評価、(左下)英語版 Wikipedia での学術文献の参照追加における編集者数の推移(1)、(右下)英語版 Wikipedia での学術文献の参照追加における編集者数の推移(2)



論文

- Kikkawa, Jiro; Takaku, Masao; Yoshikane, Fuyuki: "DOI Links on Wikipedia", Proceedings of the 18th International Conference on Asia-Pacific Digital Libraries (ICADL 2016), pp. 369-380, 2016.
- 吉川次郎; 高久雅生; 芳鐘冬樹: 「DOI リンクに基づく Wikipedia 上の参照記述における編集者の分析」, 情報知識学会誌, Vol. 30, No. 1, pp. 21-41, 2020. (情報知識学会 第 18 回 (2021) 論文賞受賞)
- 吉川次郎; 高久雅生; 芳鐘冬樹: 「Wikipedia に学術文献の参照記述を追加する編集者の特定手法」, 情報知識学会誌, Vol. 30, No. 3, pp. 370-389, 2020.
- 吉川次郎; 高久雅生; 芳鐘冬樹: 「Wikipedia 上の学術文献の参照記述の追加に関する時系列分析」, 情報知識学会誌, Vol. 31, No. 1, pp. 3-19, 2021.
- Takei, Chizuko; Kikkawa, Jiro; Yoshikane, Fuyuki: "Progress in interdisciplinarity: From the perspectives of diversity of researchers' fields of specialization", Proceedings of the 10th Asia-Pacific Conference on Library & Information Education and Practice (A-LIEP 2021), pp. 308-323, 2021.

社会貢献活動

デジタルオブジェクト識別子 (Digital Object Identifier, DOI) に関する研究に取り組んできた関係で、これまで日本国内での DOI 関連のイベントに登壇して複数回の説明を行ったほか、有識者として国立国会図書館による意見聴取などに協力してきました。研究成果に関しては、論文、スライド、データセット等をなるべく公開するように心がけています。その他、学協会における貢献として、情報知識学会におけるオンラインセミナー委員会の一員として活動しています。

メッセージ

私自身の経験に基づくメッセージは次のとおりです。(1) 大学院は自ら課題解決に取り組むことを通じて、何に心が躍る / 踊らないのか、何が大切であるかを見極め、自分自身の研究に専念する貴重な機会です。(2) 研究テーマへの想いは、物事が思うように進まないときの最後の砦として重要です。(3) 専門性に加えて、ひとりの人間として尊敬できる教員に師事することをお勧めします。なお、私は大学院担当教員ではないため、学生の受け入れはできません。

関連情報サイト